共研務者の部屋

中国での活動を終えて

元四川外国語大学教授　菊池　実

2021 年 7 月 28 日午後 9 時過ぎ、6 年半に及んだ中国の大学での教育活動を終えて帰国しました。コロナ禍での出入国でしたので、重慶から上海への移動、上海での出国検査、そして成田での入国検査等、順調に事が進まない中での帰国となりました。それでも上海滞在中には、ハルビン師範大学の教え子 6 人と交流ができて、楽しいひと時を過ごすこともできました。

中国**黒竜江省のハルビン師範大学**に３年半、**重慶の四川外国語大学**に 3 年勤務したことになります。何れの地もわたくしにとっては大変に興味深い場所でした。

旧満洲国時代の遺跡が豊富に残されている中国東北部。滞在中にはハルビン市内の松花江沿いから異国情緒漂う中央大街へのウォーキングを欠かさず行い、学生たちと一緒に満洲第七三一部隊跡へもよく出かけました。さらに北部の黒河と孫呉、西部のハイラルやノモンハン、長春、瀋陽、そして北京へとその歴史を求めながらの旅もできました。

西南部の重慶に移ってからは、日中戦争時代の遺跡を可能な限り見学することに努めました。それは重慶がこの時期に戦時首都となり、さらに国共合作の重要拠点として、また米軍による援助の最前線と大韓民国臨時政府等の存在から、これらに関連する遺跡がこれもまた豊富に残されているからです。勤務先の大学構内やその周辺には、なんと国民党の軍統(特務)組織や米軍施設が存在していたのです。重慶に赴任する前にはそれらについての知識をほとんど持ち合わせていませんでしたので、正直、赴任してからは驚きの連続でした。

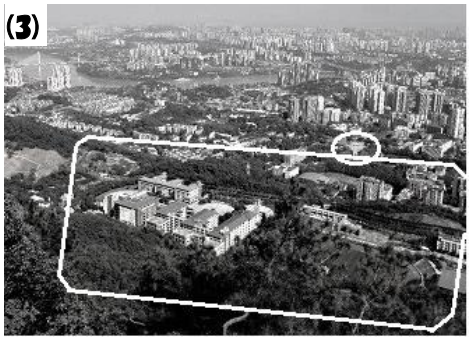
それではこの場をお借りして、わたくしが撮影した写真でそれらの施設を簡単に紹介しましょう。

(1)大学正門のすぐ目の前にあるのが「紅岩魂陳列館」です。小説『紅岩』を購入したのは学生時代のこと、ですからもう 40 数年前です。でもこれまで一度も読むことはありませんでした。ということで、大学周辺がその舞台となっていたことは露知らず、2019 年 2 月の一時帰国時に初めて読了。あらためて国共内戦時の一端を理解できるようになりました。

(2)大学構内の学生寮に囲まれた中に「蒋家院子」があります。新四軍の軍長「葉挺」将軍が囚われていた場所です。1946 年 3 月 4 日釈放後、4 月 8 日空路延安に戻る途中、飛行機の墜落で死亡。

(3)大学のすぐ背後にある山を歌楽山といいます。この周辺はウォーキングに格好の場所で、授業がない日や休日には学生とよく一緒に山登りをしました。わたくしの住んでいた教員寮からですと 1

紅岩魂陳列館



下の○内　歌楽山からの大学□

上　葉挺将軍が囚われていた「蒋家院子」

上　楊虎城将軍殺害現場
左　残滓洞

時間ほどで頂上に到達できます。かれこれ 40 回ほど登りました。日本語学部の学生に聞くと、卒業までに登ってもせいぜい 3〜4 回ほどということですのでダントツの記録となりました。

(4)この歌楽山中には日中戦争から国共内戦時の様々な遺跡が残されています。麓にあるのが、小説『紅岩』の舞台となった「白公館」と「渣滓洞」です。そして白公館脇の階段を登り切ったところには、西安事件の立役者である張学良と並び、事件のもう一人の主役、楊虎城が囚われ、そして殺害された場所が保存されています。また彼の妻も別な場所で殺害されましたが、その遺灰箱も安置されています。周辺には米海軍少将の別荘もあります。

(5)大学の北門を出てすぐの斜面に３基の防空壕を発見。周辺が整備されたことによりわかりました。これは日中戦争時のものではなくて、1960 年代中ソ関係の悪化によって構築されたもの。重慶を離れる前に入り口は封鎖されてしまいました。

(6)2021 年の 1 学期終了後、コロナ禍のために出国できなかったので、休み中に貴州省遵義への旅行を計画しました。高鉄(日本の新幹線に相当)とホテルの予約を済ませましたが、その後大学から重慶市外への移動を禁止されました。しかたなく重慶市内を旅行。とは言っても重慶市は北海道とほぼ同じ面積。市内旅行社主催の世界遺産大足石刻ツアーに潜り込んで楽しい旅を経験しました。添乗員の女性が外国人であるわたくしを気遣ってくれたことに感謝です。

(7)市内に残されている郭沫若旧居へも。室内の展示室には在華日本人反戦同盟の鹿地亘の足跡も紹介されています。

以上、簡単に紹介しましたが、まだまだお見せしたいところはたくさんあります。それらは次の機会にしましょう。

中国からの帰国後、まったく中国と縁がなくなったわけではありません。幸いにも河北省石家荘市にある河北外国語学院(大学)で教えることになったからです。大学の公募に目が留まり、それに応募したところ、学院長から業績書の提出とともに授業ビデオを送信してくださいとの連絡があり、四川外国語大学での授業ビデオを送信したところ採用になりました。自宅からのオンライン授業ですが、これまでの経験を生かしてなんとか対応できています。問題は、コロナ禍における大学側の対応といったところでしょうか。というのも 2022 年 9 月新入生は入学から 10 月下旬までの期間、自宅での受講でした。そして 10 月 30 日になってやっと大学へ来ることができるようになりました。当初は寮からの受講、そのあと教室での受講になったのも束の間、11 月 13 日には全員帰郷するようにとの大学からの指示。結局自宅でのオンライン授業の再開で 12 月 1 日をもって 1 学期を終了しました。本来の終了期日の１か月半の前倒しでした。このため授業時間確保で土曜日も授業になりましたが、その日の朝一番に本日は何曜日の授業をします、との連絡。これの対応で右往左往してしまいました。ゼロコロナ政策を放棄した現在の中国政府の状況を先取りしたような対応でした。

なお、2022 年 4 月からは立正大学でも考古学特講を講義。前期は日本国内の戦争遺跡を、後期では海外に残る日本の戦争遺跡に焦点をあてています。さらに学生に「故郷に残る戦争遺跡」の発表も課しています。2022 年 2 月 24 日からのロシアのウクライナ侵略を目の当たりにして、あらためて戦争の実相を明らかにすることの重要性を実感しています。

上　郭沫若旧居
左　大学近くの防空壕○内

世界遺産の大足石刻